

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡大井町内に所在する遺跡群の1998年度の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理作業は、国庫（3,650,000円）、県費（1,825,000円）の補助金の交付を受け、平成10年4月3日から平成11年3月31日まで実施した。
3. 調査組織

調 査 主 体 者 大井町教育委員会	文化財保護係長	坪田幹男
担 当 課 生涯学習課文化財保護係	文化財保護係・庶務	高橋偕子
教 育 長 遠藤正明	文化財保護係・発掘調査担当者	高崎直成・鍋島直久
生涯学習課長 仲野政男	大井町臨時職員・発掘調査補助員	土本医
4. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。
 執 筆：縄文土器 今井堯、本文・遺構 高崎直成
 土器・陶磁器実測：青山奈保美、石垣ゆき子、石原聡、高橋けい子、丹治つや子、山口妙子
 石器実測：石原聡、高橋けい子 土器拓影：石垣ゆき子、植田勢津子、高橋けい子、山口妙子
 土器復元：中田藤子 トレース：青山奈保美、小林登喜枝、須藤さち子、 表作成：植田勢津子
 図版作成：青山奈保美、石垣ゆき子、須藤さち子、高橋けい子、中田藤子、山口妙子、丹治つや子
 遺構写真：坪田幹男・高崎直成・鍋島直久・土本医 遺物写真：高崎直成
 土器・石器実測の一部を（有）文化財COMに委託した。
 また、整理作業のなかで日本考古学協会の今井堯氏の援助と協力を得た。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）
 会田昭明、浅野晴樹、穴澤義功、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、市丸靖子、内田賢司、岡田憲治、小澤千恵子、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、駒井和久、桜井信枝、笹森健一、佐藤啓子、島田一郎、高橋京子、田中信、中島宏、塚田政子、原口雅樹、早坂廣人、松本新八郎、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治
 埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、東久保土地区画整理組合、大井町立郷土資料館、大井町遺跡調査会、（有）文化財COM。
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。
 〈発掘調査参加者〉（敬称略）
 新井和枝、荒井美奈子、飯塚泰子、石原聡、井上晴江、海老原サナエ、大曾根キク子、笠原英子、金子君子、金丸文男、小林こずい、酒井昭、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、高木千恵子、戸澤竹二、中嶋末子、野岡由紀子、野沢松代、林きぬ子、比嘉洋子、三村美代子、若尾久美子、若林紀美代
 〈整理作業参加者〉（敬称略）
 青山奈保美、石垣ゆき子、石原聡、植田勢津子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
 - (1) 縮尺は原則として
 遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30
 土器実測図 1:4 土器拓影図 1:3 石器実測図 1:3、2:3 銭 1:1
 - (2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。
 - (3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。
 攪乱  地山（ローム）  焼土 
 土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫 ○
 - (4) 土器実測図における screen-tone の指示。
 地文縄文  撚糸文 
 - (5) 土器断面図は、「」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号にしている。
3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

	遺 跡 名	申 請 地	面積 (㎡)	原 因	試 掘 期 間	調 査 措 置
36	浄禅寺跡遺跡第17地点	苗間345-2・10	877	個人住宅	10. 9. 29～10. 10. 2	試掘
37	大井氏館跡遺跡第11地点	大井951-1	200	告別式会場	10. 11. 9～10. 11. 17	試掘
38	本村遺跡第68地点	大井182	302	個人住宅	10. 4. 17～10. 4. 21	試掘
39	本村遺跡第69地点	大井苗間81街区5画地	116	個人住宅	10. 8. 24	試掘
40	本村遺跡第70地点	大井苗間130街区11画地	354	個人住宅	10. 9. 4	試掘
41	本村遺跡第71地点	大井苗間93-2街区3画地の一部	116	個人住宅	10. 10. 12	試掘
42	本村遺跡第72地点	大井苗間114街区14画地	210	アスファルト駐車場	10. 11. 12	試掘
43	本村遺跡第73地点	大井苗間115街区1画地の一部	156	個人住宅	10. 11. 12	試掘
44	本村遺跡第74地点	大井苗間108街区2・3・6・7画地	1,495	共同住宅	11. 1. 11～11. 1. 19 (11. 2. 8～11. 2. 17)	試掘後遺跡調査会で本調査
45	本村遺跡第75地点	大井苗間99街区1画地	224	個人住宅	11. 1. 18	試掘
46	東台遺跡第30地点	大井640-1	1,330	砂利敷駐車場	10. 11. 4～10. 11. 12	試掘
調 査 面 積 合 計			25,395			

第3表 1998年度大井町遺跡調査会による埋蔵文化財調査一覧

	遺 跡 名	申 請 地	面積 (㎡)	原 因	調 査 期 間	試 掘 期 間
1	亀久保堀跡遺跡第10地点	東久保区画整理地内	258	区画整理道路	10. 5. 20～10. 5. 21	
2	亀久保堀跡遺跡第17地点	東久保区画整理地内	342	区画整理道路	10. 10. 21～10. 11. 30	
3	東久保遺跡第11地点	東久保区画整理地内	440	区画整理道路	10. 7. 14～10. 8. 6	
4	東久保遺跡第12地点	東久保区画整理地内	162	区画整理道路	11. 1. 19～11. 1. 21	
5	東久保西遺跡第3地点	東久保区画整理地内	1,452	区画整理道路	10. 6. 1～11. 1. 20	
6	東久保遺跡第9地点	亀久保279、280	2,117	共同住宅	10. 3. 1～10. 5. 18	9. 8. 18～9. 8. 28
7	東久保西遺跡第6地点	東久保12街区1・2・10画地	1,959	店舗	11. 2. 24～11. 3. 1	11. 2. 9～11. 2. 15
8	神明後遺跡第9地点	苗間310-1	218	共同住宅兼自家用車庫	10. 9. 14～10. 10. 15	10. 9. 1～10. 9. 11
9	苗間東久保遺跡第20地点	苗間637-18・19	664	分譲住宅	10. 6. 18～10. 8. 13	10. 3. 18～10. 3. 24
10	本村遺跡第65地点	大井110-2	391	東原小学校増築工事	10. 4. 16～10. 5. 21	10. 3. 6～10. 3. 13
11	本村遺跡第74地点	大井苗間108街区2・3・6・7画地	1,495	共同住宅	11. 1. 11～11. 1. 19	11. 1. 11～11. 1. 19
調査面積合計			9,498			
東久保区画整理事業に伴う発掘調査面積合計			2,654			
第2表に掲載した地点を除いた調査面積合計			5,826			

第4表 その他の立会い調査一覧

	遺 跡 名	申 請 地	面積 (㎡)	原 因	処 置
1	鶴ヶ舞遺跡	鶴ヶ舞1-19-9	687	共同住宅	工事立会い
2	亀居遺跡	東久保8街区2画地	60	個人住宅	範囲外調査不要
3	東久保遺跡	東久保25街区1画地	318	共同住宅	範囲外調査不要
4	東久保南遺跡	東久保59街区7画地	52	共同住宅	富士見市で調査
5	西ノ原遺跡	大井苗間57街区5・6・7画地	301	店舗	101地点として調査済
6	中沢前遺跡	大井苗間32街区2・3画地	741	個人住宅	盛土のため調査不可
7	苗間東久保遺跡	苗間621-10	100	個人住宅	工事立会い
8	西台遺跡	大井897-14	1,000	農地改良	開発申請取り下げ

XI 浄禅寺跡遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境

浄禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12～14mで現谷底との比高差は約2mを測る。浄禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を浄禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は早くに市街化が進み、また残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。2000年3月現在19ヶ所で発掘調査が行われ、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中・近世の薬研状の堀、遺跡名の由来である浄禅寺墓域から墓壇157基、一字一石経約76,000点が出土している。旧苗間村の浄禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

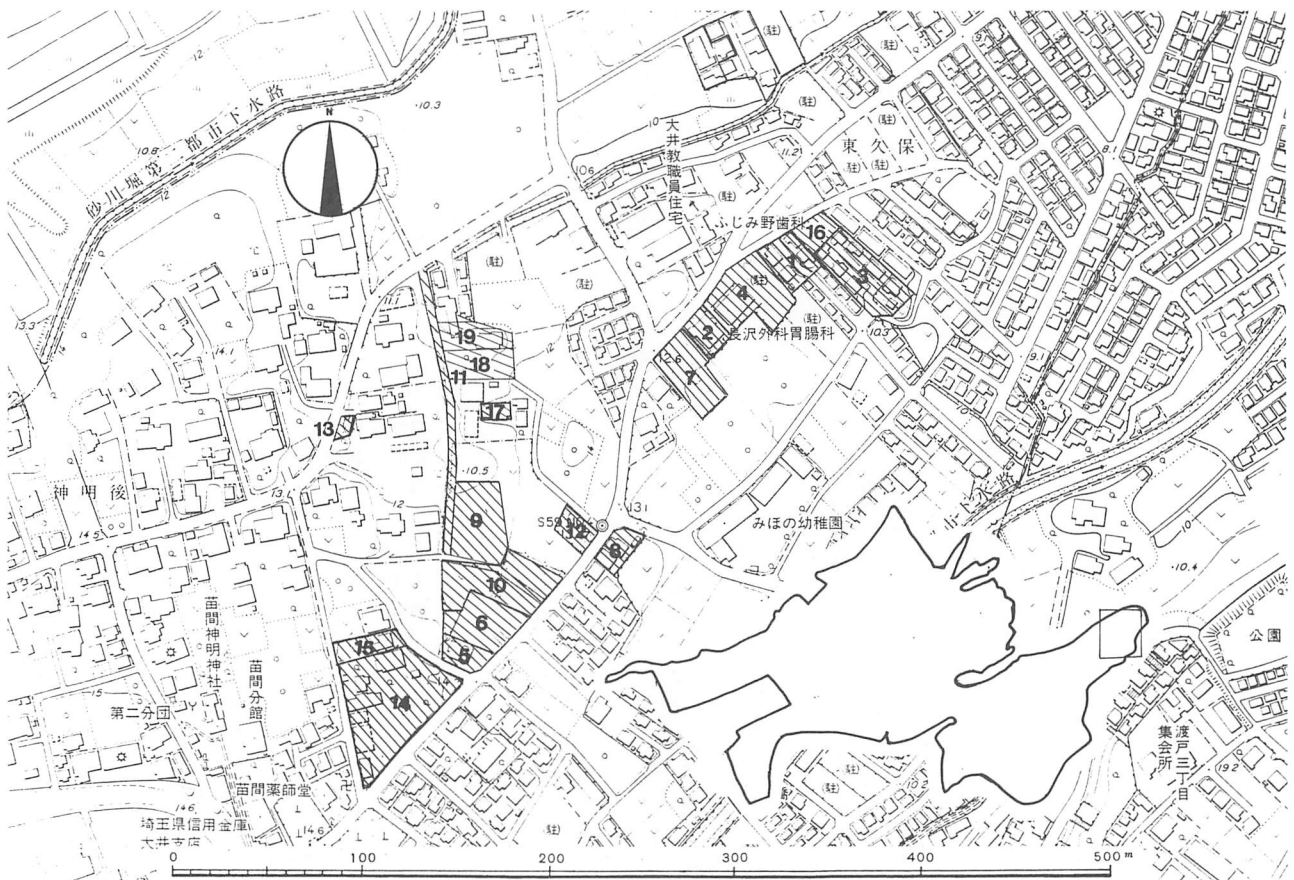
2 浄禅寺跡遺跡第17地点

(1) 調査の概要

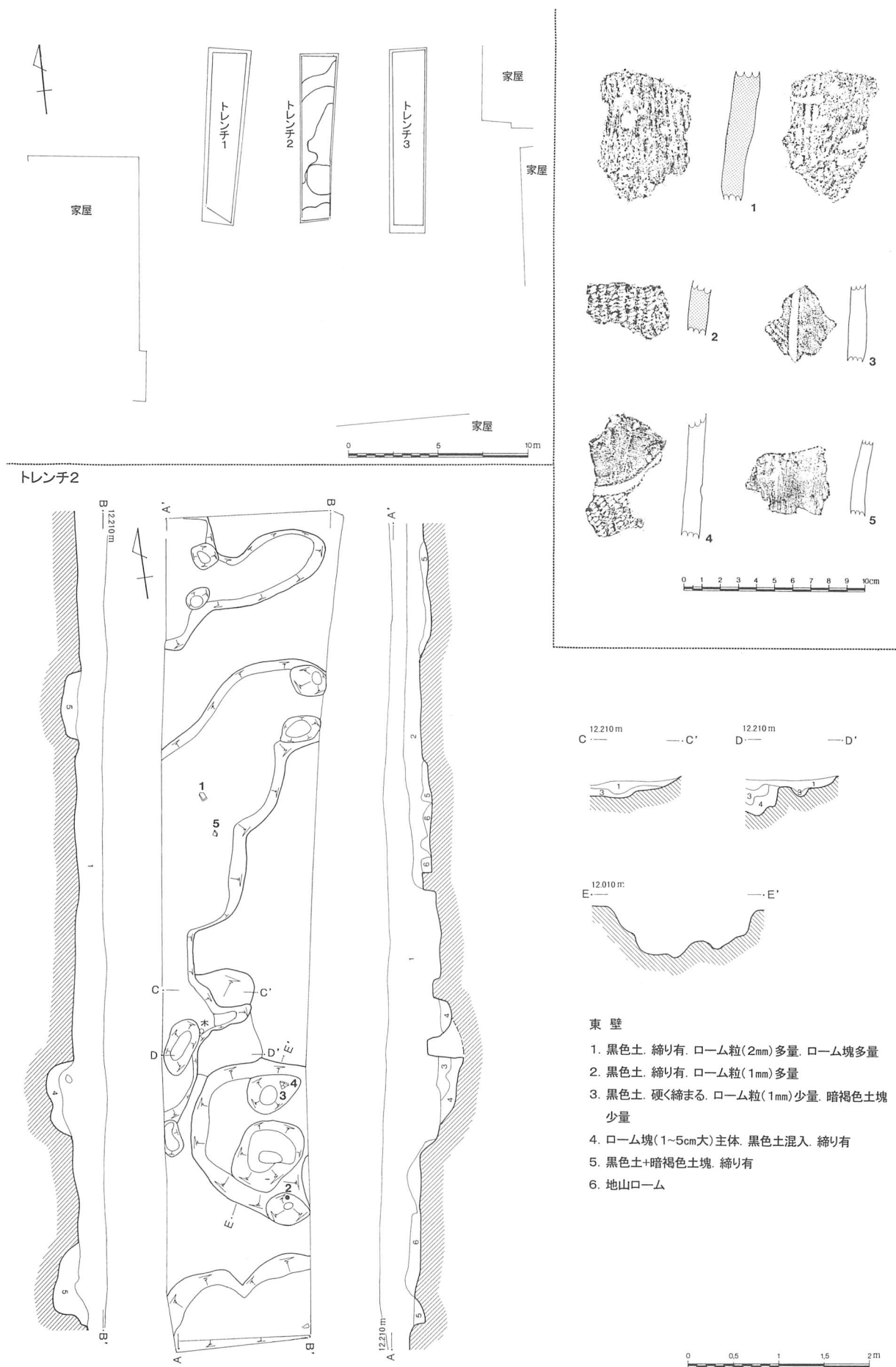
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より1998年7月14日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が提出された。申請地は遺跡範囲の西側、湧水地周辺の低地にあたる。申請者と協議の結果、遺跡の範囲と遺構の存在確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約2mのトレンチを3本設定し、9月29日から重機による表土除去の後、人力による表面精査を行った結果、トレンチ1・2で木の根痕と斜面地の黒色土堆積及び縄文土器を検出し、10月2日調査を終了した。

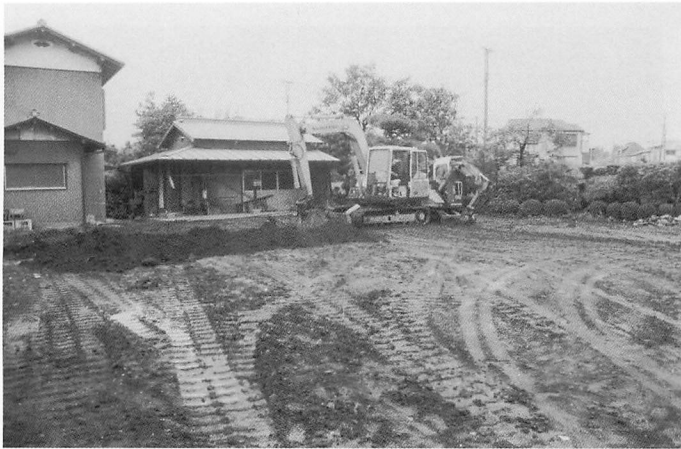
【出土遺物】1は表裏に貝殻条痕文を持ち、胎土には白色砂粒と繊維を含み表面赤褐色を呈する。茅山下層式。2は前段多条の斜行縄文で胎土に繊維を含む関山式。3は地文縄文に磨消懸垂文を持ち、4は地文の縄文を弧状に広く磨消す。5は細い条線を持つ。3～5は加曽利EⅡ～EⅢ式。



第104図 浄禅寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



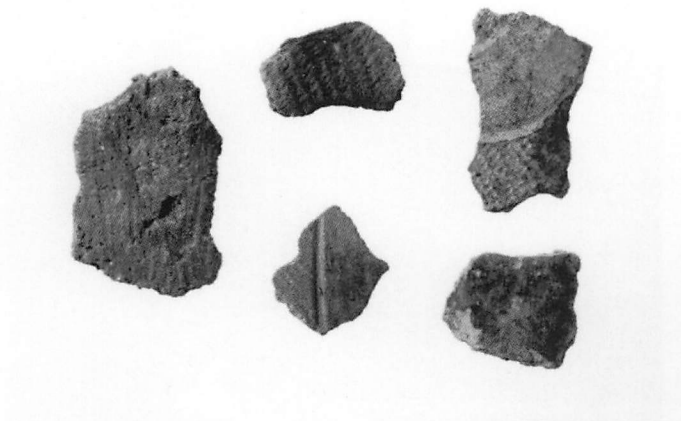
第105図 浄禅寺跡遺跡第17地点遺構配置図(1/300)・土層・遺構図(1/60)・出土土器(1/3)



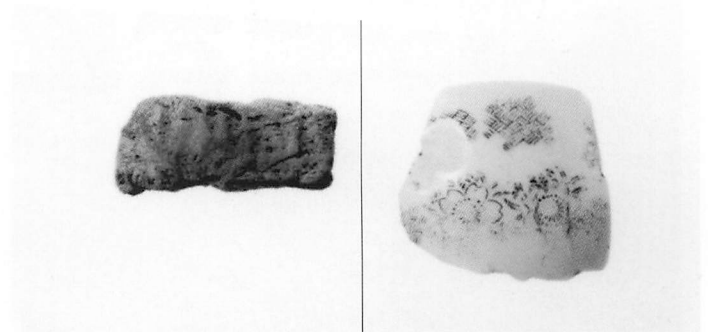
浄禅寺跡遺跡第17地点 調査区全景



浄禅寺跡遺跡第17地点 遺物出土状態



浄禅寺跡遺跡第17地点 出土遺物



本村遺跡第70・71地点 出土遺物



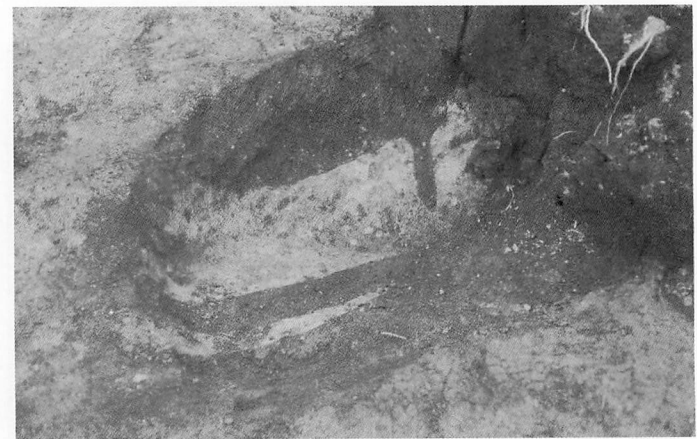
本村遺跡第68地点 落とし穴



本村遺跡第69地点 調査区全景



本村遺跡第70地点 調査区全景



本村遺跡第70地点 土坑